

ワクワクがとまらない 自然と チャレンジがいきるまち 田村市

田村市は、福島県中通り地方の阿武隈高原中央に位置し、丘陵が連続する豊かな自然に囲まれた高

原都市であり、石灰岩でできたカルスト台地を有し、全国でも有数の規模を誇る鍾乳洞「あぶくま洞」では、悠久の時を経て形成された神秘的な自然の造形美を見ることが出来ます。

また、特産品の「エゴマ」は、古くから食して10年長生きするという伝承のもと別名「じゅうねん」として地元で親しまれ、令和5年1月には地理的表示保護制度（G

I）登録産品となるほど価値が高まっています。

これらの地域の魅力を掘り起こし、そ



大阪・関西万博で昆虫と戯れる観光客



「ムシムシランド」昆虫館

れらを活かすまちづくりや情報の発信に取り組んでいます。

昆虫の聖地・田村市 昆虫が紡ぐ地域の魅力創出

平成の合併前の旧常葉町では、昆虫と触れ合える施設「ムシムシランド」などを設置し、豊かな自然を生かした地域活性化を進めてきました。東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により、里山への立ち入りの制限や施設の一時休館など甚大な被害を受けました。

このため、昆虫の生息する豊かな里山の復興に向けて、「昆虫の聖地 田村市」を掲げ、令和5年には「昆虫課」（バーチャル課）を創設。同年に、福島県内原発事故被災12市町村が発起人となり、昆虫を活かし地域活性化に取り組む全国の市町村とともに「昆虫の聖地協議会」を設立し、多様な昆虫が生息しやすい自然環境の保全や、昆虫を観光資源とした地域活性化を目指す意見交換を進めています。

また、デジタル世代へ向け、地方自治体では極めて珍しい取り組みとして、本年2月に昆虫を捕まえながら本市の魅力を体験できるオリジナルRobloxゲーム「タムコン」をリリースし、PRを行っています。

本年5月には、大阪・関西万博の福島復興展示で、約100匹の

ブトムシをミニカブトムシドームに放ち「ムシムシランド」を再現し、国内外の多くの来訪者に「昆虫の聖地 田村市」を通して復興をアピールしました。

福島第一原発事故からの 基幹産業復興

本市では、福島第一原発事故からの復興に向け、基幹産業である農林業の復興に力を入れており、営農再開、風評被害の払拭、農家の収入向上に向けた支援および森林再生に向けた整備を積極的に進めています。

農業分野では、農地の基盤整備を行い、営農再開の加速化を図っており、再生した農地で生産された農作物を首都圏などのイベントで販売し、PRに取り組んでいます。また、本年8月には、田村市農産物振興施設が完成し、田村市産農産物を使った6次化商品の開発、製造など、さらなる風評払拭、収入の向上に取り組んでいます。

林業分野では、原発事故に伴う



キッチンカー首都圏イベント



キッチンカー移住チャレンジ
担い手



フィリピン・セブ島語学研修修了式

本市では、難関大学に毎年10人が合格できる教育先進市を目指す「東大10人構想」を掲げて、事業に取り組んでおり、これは教育の面から10年・20年後を見据えた少子化対策として、子育て世帯に選んでもらえる教育を推進しております。

達成に向けた主な取り組みは、小学5・6年生を対象とした国語・算数・英語の特別講座「たむらチャレンジ塾」の開催や、英語検定3級以上取得を条件としたフィリピン・セブ島での短期語学集中研修のほか、

この状況を改善するため、令和4年度より、「キッチンカー移住チャレンジ」プロジェクトを実施しています。移住して、キッチンカーで起業したい方を全国から募集し、開業や運営、移住に関する支援を行っています。メニューに田村市産農産物を使用し、首都圏

全国的な少子化に加え、福島第一原発事故による影響などもあり、人口の減少が課題となっています。

移住者による魅力の発信

放射能の影響により原木シイタケの出荷制限や森林の環境整備が滞り、水源かん養など森林の機能が低下したため、これらの機能回復、森林再生に積極的に取り組んでいます。

でキッチンカーイベントを開催するなど、県内外を問わず市の農産物の魅力を発信しております。

これまでに、担い手4人を採用し、家族を含め18人が移住しました。本年度も11月に東京都中野区でイベント開催を予定しており、今後も、田村市産農産物を食してもらう機会を提供し、農産物のブランドイメージの向上を図るとともに移住定住の促進を進めていきます。

子育て世帯に選んでもらえる教育推進

本市では、難関大学に毎年10人が合格できる教育先進市を目指す「東大10人構想」を掲げて、事業に取り組んでおり、これは教育の面から10年・20年後を見据えた少子化

プロフィール

教員スキルアップのため1週間に及ぶ先進校研修などを展開しています。

また、本年度から市内全ての小中学校に元教員などからなる「授業推進員」を配置し、授業理解が早く、時間に余裕がある児童生徒に発展的な問題を出すなど、学びの意欲に応える学習支援を



授業推進員による学習風景

行っています。

人口減少など地方自治体を取り巻く現状は、厳しさを増しておりますが、本市の魅力を見出し、これらを活かすことで市民と一緒に「ワクワクがいきるまち 田村市」を目指してまいります。



田村市長
白石高司

〔将来都市像〕ワクワクがとまらない自然とチャレンジがいきるまち 田村市

〔まちの特徴〕福島県唯一の商業鍾乳洞「あぶくま洞・入水鍾乳洞」をはじめ、「昆虫の聖地」として豊かな自然環境が残る高原都市

〔市町村合併〕平成17年3月1日、滝根町、大越町、都路村、常葉町、船引町の5町村が合併



〔特産品〕エゴマ、ピーマン、さやいんげん、トマト、さつまいも、鶏産、うなぎ、清酒、カブトムシ（昆虫）

〔観光〕あぶくま洞、入水鍾乳洞、星の村天文台、スカイパレスときわ、ムシムシランド、グリーンパーク都路、お人形様

〔イベント〕カブトムシドームオープン、あぶくま洞イベント（春夏秋冬）、星の村天文台星まつり、灯籠流しと花火大会、田村市うんめえフェス

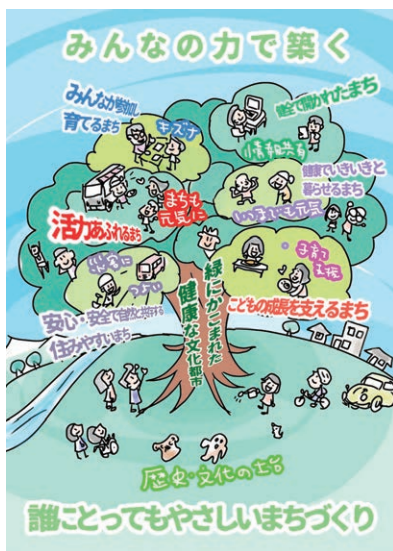
※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

縄文に学ぶ循環・平和・共生
―自然と共生しながら住み続ける心地よい暮らし―

北本市は、埼玉県の中央部、大宮台地の最高地点に位置し、人口6万5034人、面積19・82km²とコンパクトな市域を有する自然と居住環境が共存する市です。東京都心からは、約45km圏内にあり、電車で東京駅まで約50分、高速道路で県内外へのアクセスが可能であり、交通の利便性が良好です。

本市は、長期的な展望をもって総合的かつ計画的に行政運営を行うため、市の最上位計画である総



第六次北本市総合振興計画基本構想イメージ図

合振興計画を五次にわたって策定してきました。この計画に基づ

き、子育て・教育の充実を図る政策や市への愛着や好感を高めるための広報、シテイプロモーションなどを実施しており、現在、人口動態や社会構造の変化などを踏まえ、新たな指針となる第六次北本市総合振興計画の策定を進めています。

関係人口で増やすつながり

今後のまちづくりでは、定住人口の維持を図りながら、継続的に本市に関心をもち、多様な形で関わり続ける関係人口を増やすことが必要です。そのために、市民とともに市の価値や魅力を創出し、伝える事業を実践しています。

本市が発行している「広報きたもと」は、紙面の企画、取材、編集

など印刷以外の全ての工程を内製化しており、人々のリアルな言動を引き出し、日常の風景を捉え、それらを効果的に紙面で表現することで、市民の暮らしや思いを伝えていきます。

関係人口を増やすための取り組みとしては、シテイプロモーションを通して、まちの人材・物財・資金・情報などの資源を活用可能にする事業を実践しています。具体的には、庁舎の芝生広場で定期的に開催する「&greenマーケット」やその手法を学ぶマーケットの学校の展開、団地を再利用した居場所づくりの支援などを通して、市民参加の場を創出しています。さまざまな形で「つながり」を広げていくことが地域課題の解決に有効だと考えています。また、シテイプロモーションの一環として、



第62回全国広報広聴研究大会

ふるさと納税を推進し、令和2年度から4年連続で寄付額が県内1位となりました。いただいた寄付金は、小・中学校給食費無償化や給付型奨学金などの子育て支援や公園の機能拡充、高齢者ラウンジ運営管理などに活用しています。

このような広報、シテイプロモーションの取り組みの結果、全国広報コンクールにおいて、令和4年に広報企画部門、令和5年に広報紙部門で、最高賞である内閣総理大臣賞を2年連続で受賞しました。本年6月には、全国広報広

聴研究大会の開催市となり、全国各地から広報関係者にお越しいただき、直接交流を深める貴重な機会となりました。

縄文都市きたもと

本市は、都心に近い場所にあるながら、市内全域が森林セラピー基地に認定されており、多くの緑地や雑木林が残っています。また、公園では、自然観察やキャンプ、農業体験が可能であり、さらに荒川の水辺におけるデイキャンプの実証実験やパークウエディングの取り組みも進めています。

人々が現代に引き継がれる豊かな自然とともに生活してきたことは、歴史からも証明されています。本市には、市の南部に、縄文時代の人々の生活を伝えるデーノタメ遺跡が残されています。デーノタメ遺跡は、縄文時代中後期に約1500年間続いた関東最大級の集落遺跡であり、低湿地で真空パック状態の地層から漆塗り土器



国指定史跡「デーノタメ遺跡」

やクルミの殻などが多数発見されていることから、この地に住む縄文人の居住環境や食生活が非常に豊かであったことを示しています。私たちは、縄文人が自然と共生し、資源を循環させ、平和な社会を築いてきた歴史の原点から持続可能なまちづくりのヒントが得られると考えています。令和6年10月11日、デーノタメ遺跡は国指定史跡に登録されました。今後は、保存活用地域計画の策定に着手し、市民とともにさまざまな取り組みを進めていきます。

ミドリトテラスがつくる新しい価値

今後のまちづくりは、人口規模・財政規模に合った行政運営を進めることで、市民の幸福度を高める視点が必要です。本年6月、閉校した小学校を活用し、点-in-していた高齢者ラウンジ、教育センター、保健センターなどの機能を集約した複合施設として、栄市民活動交流センター「ミドリトテラス」を開設しました。この事業は、人口減少が進む本市における公共施設の在り方、適正配置のモデルケースとして、「賢く縮む」こ

とを体现したもので、新たな価値・サービスを市民に提供していきます。

今後も、緑にかこまれた健康な文化都市を目指し、地域資源の活用や積極的な情報発信によりローカルブランドを高めるとともに、市民が地域課題を自分事として捉え、主体的に関わることで実現する持続可能なまちづくりを進めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 19・82km²
- ◆ 人口 6万5034人
- ◆ 世帯数 3万1073世帯

〔将来都市像〕緑にかこまれた健康な文化都市

〔まちの特徴〕都心近郊に位置しながら、豊かな自然と良好な住環境が共存する災害に強いコンパクトシティ

〔特産品〕トマト、北本トマトカレー、ブラム、梨



北本市長
三宮幸雄



〔観光〕グリコピア・イースト、石戸蒲ザクラ、北本自然観察公園、きたもと「四季の恵み」マルシェ
〔イベント〕みどりとまつり（3月）、さくらまつり（4月）、こどもとみどりのフェスティバル（4月）、北本まつり（宵まつり・産業まつり）（11月）



栄市民活動交流センター「ミドリトテラス」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

人とまちがにぎわい、市民の笑顔が
あふれる、麗しの富田林

昭和25年に大阪府下16番目の市として産声を上げた富田林市は、大阪市内へのアクセスも良好でありながら、豊かな自然環境と歴史・文化が調和した郊外都市として発展を続けています。特に「富田林寺内町」は、大阪府内唯一の国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、歴史的に貴重な町並みが残されています。

若者が活躍する
まち、富田林

本市では、若者が活躍できるまちづくりを進めるため、令和3年4月に大阪府内初となる「富田林市若者条例」を制定しました。
この条例に基づき設置された「富田林市若



若者会議から生まれたミューラル



富田林市若者会議第4期若者委員

者会議」では、若者たちが富田林の魅力や課題について意見を交わしながら、本市に必要な施策や取り組みについて提案し、市と共にその実現を目指しています。
多様なバックグラウンドを持つ参加者が、まちをより良くするために議論を重ね、そこから生まれたアイデアは形となり、これまで若者会議から提案され、実施した

若者ならではの柔軟な発想と行動力が、富田林に新たな風を吹き込み、まちの未来に確かな可能性をもたらしています。
「富田林市若者会議」は、若者の声をくみ上げ、地域社会全体の活性化に資する場であると同時に、会議を通して若者同士のつながりを生み、未来のまちづくりを担う人材として成長できる貴重な機会

施策は10を超えました。

市の新たなシンボルとなるミューラルの制作や、市の特産品である「大阪なす」をPRするためのイベントの実施など、

となっています。

一人一人の幸せと地域の理想を実現する「増進型地域福祉」へのチャレンジ

『増進型地域福祉』とは、「対話と理想」を理念とし、課題解決の先にある理想（幸福）の実現を目指す目的実現型の地域福祉です。
本市では、『増進型地域福祉』を重要施策と位置付け、福祉部局にとどまらず、全部局で取り組んでいます。

その一つの取り組みが「校区交流会議」で、これは市内16の小学校区ごとに、地域住民や関係機関などが主体となって開催しており、世代間交流や居場所づくり、健康増進など掲げるテーマは校区が抱える課題によりさまざまですが、テーマに応じた特色あるプログラムが実践されています。

この会議には、任命された職員が全部局から行政と地域のパイプ役を担う「校区担当職員」として参加し、地域の方々と対話を重ね



富田林寺内町



(校区交流会議) 防災訓練に併せ「ぼうさい大声大会」を開催



(校区交流会議) 障がい者施設と連携した世代間交流イベント

ながら地域課題を肌で感じ、それぞれの施策の検討・立案に結び付けます。

少子高齢化、人間関係の希薄化など、地域課題が複雑化する中で、改めて地域福祉の推進が注目され、新たな地域のセーフティネットの構築が求められています。

地域住民や関係機関、行政が手を携えて地域の理想を描き、その実現を目指すプロセスこそが、行政の使命であり、『増進型地域福祉』は、私たちが志す「市民とともに創る市政」の実現に向けた大切な取り組みです。

すべての子どもを、みんなで応援するまちづくり

私の二期目の市政運営における所信表明において「すべての子どもを、みんなで応援するまちづくり」として、富田林版「子どもまんなか社会」を掲げ、子ども・子育て

支援に係るさまざまな事業を進めています。

具体的な事業としては、大阪府内初の実施として、令和6年1月から開始した「見守りおむつ定期便」があります。これは、市内の0歳児家庭を対象に、満1歳になるまでの毎月、子育て経験のある「見守り配達員」がおむつなどの子育て用品をお届けし、育児の相談や情報提供などを行う事業です。これにより、子育ての孤立化防止や早期の支援につなぐことを目的としています。

また、令和6年度からは、地域全体で子どもの権利を理解し尊重する、子どもの最善の利益を優先する社会の実現を目指し、「富田林市子どもの権利条例」の制定に向けた取り組みを開始しました。制定プロセスにおいては、子どもや子ども・子育てに関わる方々の声をしっかりと聴くことを重視し、この間、市内全小中高生を対象としたアンケートをはじめさまざまな調査を行ってきました。本年度



富田林市見守りおむつ定期便事業

は、子どもたちが条例制定に参加する仕組みとして、条例の前文を作るワークショップも予定しており、令和8年3月の条例制定を目指しています。

さらに、「子どもの権利擁護・救済機関」設置など、制定後の事業についても企画を始めています。これらの一連の取り組みを通じて、富

結びに

田林版「子どもまんなか社会」の実現を力強く進めてまいります。

まちは、市民と行政の協働による創造物です。

人と人とのつながりを大切に、子育て世代をはじめ若者からお年寄りまで、市民の皆さまが誇りと愛着を持てるまちづくりこそが市の持続的な発展の基盤となると考え、これからも各種施策に取り組んでまいります。

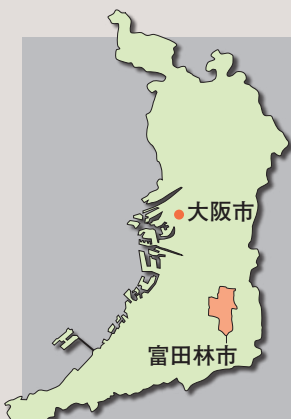
プロフィール

- ◆ 面積 39・72 km²
- ◆ 人口 10万5103人
- ◆ 世帯数 5万2282世帯

〔将来都市像〕ひとがきらめく！自然がきらめく！歴史がきらめく！みんなでつくる 笑顔あふれるまち 富田林〔まちの特徴〕豊かな自然と歴史に恵まれたまち



富田林市長
吉村善美



〔特産品〕大阪なす、キュウリ、富田林の海老芋（GI登録産品）、大阪金剛簾
〔観光〕富田林寺内町（重要伝統的建造物群保存地区）、農業公園サバーファーム、ミューラルアート
〔イベント〕じないまち四季物語、だんじり祭り、金剛きらめきイルミネーション、石川河川敷こいのぼり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

『出雲力』で夢☆未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまち」の実現に向けて

出雲市は、島根県東部に位置

し、日本海、宍道湖・神西湖、中国山地の山々など、多彩な自然に恵まれたまちです。面積は東京23区とほぼ同じであり、市の中央部には、中国山地から流れる斐伊川と神戸川の二大河川により形成された出雲平野が広がり、山陰屈指の穀倉地帯として農業が盛んです。また、家々を囲む屋敷林「築地松」

歴史と文化が息づいています。

旧暦10月は、一般的に「神無月」と呼ばれますが、全国の八百万の神々が集まる出雲では、この月を「神在月」と呼び、縁結びで有名な出雲大社をはじめ市内の各神社では、神々をお迎えする特別な神事が行われます。「神在月」には、全国から多くの方が「縁結びのまち出雲」を訪れます。

「選ばれるまち」出雲

稲佐の浜

を巡らせた散居集落は、出雲平野特有の貴重な景観です。さらに、出雲の地は、「古事記」や「日本書紀」などに記された出雲神話の舞台であり、古代から受け継がれた豊かな

本市は、人口減少対策をまちづくりの総合対策として、魅力ある雇用の場の創出、出会い・結婚・出産・子育て・教育の各ライフステージにおける切れ目ない支援、ここに住んでも安全・安心に暮らせるまちづくりなど、さまざまな施策を展開しています。なかでも、雇用は生活の基盤と



出雲斐川インター企業団地の整備

なる要素であり、地場企業の経営基盤強化・農林水産業の収益力向上・各産業の人材確保などの支援に加え、積極的な企業誘致、近年は特に多くのIT企業の市内進出により、若者の希望がかなえられる雇用の場の創出に取り組んでいます。

本年4月発表の「住民基本台帳

人口移動報告2024年結果」によると、本市は中国・四国地方の市町村の中で、社会増の人数がトップとなりました。これは、本市が「選ばれるまち」になっている証しと捉えており、この流れを加速させていきたいと考えています。

今後も、本市が「選ばれるまち」となるよう、希望する仕事があり、安心して子育てができ、住み慣れた地域で、心豊かに暮らせるまちづくりを推進していきます。

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

人口減少が進む中、住民サービスの向上、効率的な行政運営、持続可能な地域社会の実現を図るため、デジタル技術の活用が求められています。

本市は、DXの取り組みの一つとして、本市が出資する企業（株）People Cloud」による国内外からの高度IT人材の確保や企業誘致を推進しています。さらに、コワーキングスペース「Izumonomad（イ



Izumonomad開所式

ズモノマド」を拠点に、本市がIT人材や企業が行き来するハブとなり、人が企業を呼び、企業が人を呼び込む好循環を生み出すDX先進エリア「Tech Hub Izumo（テックハブイズモ）」を目指しています。

また、住民サービスの向上に向けて、「窓口に行かなくてもよい」「待たなくてもよい」「申請書を書かなくてもよい」利便性の高い窓口サービス改革に取り組んでいます。

今後も、市民や事業者が、デジタル技術の恩恵を享受できるDX社会を目指し、取り組みを進めます。

トキも 人も 育つまちへ

本市は、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」の脱炭素社会の実現に向け、市民、事業者、関係団体が共通の目標を持って取り組んでいけるよう、特別天然記念物「トキ」をシンボルに掲げ、環境にやさ



特別天然記念物「トキ」(写真提供:環境省)

しいまちづくりを進めています。日本で絶滅したトキが生息できるまちは、そこに住む人々が環境にやさしい生活を営んでいるということであり、人にとっても住みやすいまちと言えます。

現在、関西以西で唯一となるトキの放鳥・野生復帰に向け、機運醸成を図るとともに、トキの生息環境の整備につながる環境にやさしい農業の普及や、豊かな生態系の再生などに取り組んでいます。

本市の豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくことが、今を生きる私たちの責務であり、「トキも人も育つまちへ」を合言葉に、出雲の空をトキが雄大に飛び交う、人と自然が共生するまちを目指していきます。

市政を「前へ」

本市は、「縁結びのまち」というオンリーワンのブランド力、県内一の農業産出額・工業製品出荷額などを誇る産業分野の活力、豊かな自然環境や魅力ある歴史・文化遺産、そして人と人とのつながり「ご縁」を大切にする人の力などの総合力を「出雲力」と表現しています。

私は、この「出雲力」をさらに高めていくことが、本市の持続的な発展につながると考えており、市民、企業、関係機関・団体とともに、力強くスクラムを組み、市政を「前へ」進めます。そして、まちづくりの将来像「出雲力」で夢☆未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまち」の実現に向け、全身全霊で邁進してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 624.3km²
- ◆ 人口 17万1747人
- ◆ 世帯数 7万1069世帯

〔将来都市像〕「出雲力」で夢☆未来へつなげ 誰もが笑顔になれるまち

〔まちの特徴〕豊かな自然・歴史・文化に彩られ、あらゆる良い「ご縁」を大切にする「縁結びのまち」

〔市町村合併〕平成17年3月22日、出雲市、平田市、佐田町、多伎町、湖陵町、大社町の2市4町が合併
平成23年10月1日、斐川町が編入合併



出雲市長
飯塚俊之



〔特産品〕出雲そば、出雲ぜんざい、島根ぶどう、多伎いちじく、西浜いも、大和しじみ、出西しょうが

〔観光〕出雲大社、出雲日御碕灯台、須佐神社、一畑寺、木綿街道、荒神谷遺跡、道の駅キララ多伎

〔イベント〕出雲神話まつり、出雲全日本大学選抜駅伝競走（出雲駅伝）、出雲ドームかみあり吹奏楽フェスタ、出雲くにびきマラソン

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。